

赤い羽根の街頭募金



10月3日(土)、Aコープみゆき店前で市内児童センター等の子どもたちが街頭募金を行いました。多くの方々にご協力いただきました。ありがとうございました。



巻頭特別特集

共同募金を考える

「赤い羽根共同募金」(略して「共募」といいます)は、

1947年(昭和22年)※

今月の1日から始まりま

した「赤い羽根共同募金」ですが、テレビでアナウンサーなどが赤い羽根を着けているのをご覧になった方も多いかもしれません。皆さんの中には、「何だかよくわからないけど、封筒が来るから500円玉入れて出してる」というような向きもいらつしやるかと思えます。

そこで、今月は「赤い羽根共同募金」について、できるだけやさしく、わかりやすくご説明いたしますので、お読みいただければ幸いです。

その1・どのような募金なのか

1) から始まりました。ご近所・お隣同士のたすけあいを基本に、その福祉を進めることを目的とし、更にだれもが住みなれた地域で安心して暮らすことを目的としています。他にも、住民みずからが参加する福祉の輪づくりへの参加を促すこと、そしてそれを実現するための多様な活動をお金の面から支援します。住民にとつて、わかりやすい、透明性のある、参加しやすい運営と情報公開を行い、日本に新しい寄付の文化の創造をめざし、その中心的な役割を果たすことを目的として行われている目標募金運動※2です。

その2・一体何に使われているのか

共募に寄付された浄財は、簡単に言えば「福祉のため」に使われます。とは言つても、「じゃあ福祉の何に使われているの?」という疑問が出てくるのは当然です。

では、飯山市で寄付いただいたお金がどのようなことに使われているのか見てください。

昨年、平成20年度の飯山市の募金額は、833万3,606円でした。その内、県内の福祉事業等へ114万円(この中からも飯山市の福祉施設等に使われます。新聞等で飯山学園に除雪機が贈られた、との記事をご覧になった方もいらつしやるかと存じますが、これが財源です)。

その3・実際のところ...

では、実際に飯山市のどのような社会福祉(地域福祉)事業のために使われているのかご説明します。

大きいところから申しますと、「歳末激励事業」という事業があります。これは、何かと物入りな年の瀬に、『愛のしるしクーポン券』を贈呈する事業です。これに150万円の予算がついています。

次に大きいのは地区社協への「活動促進事業」です。これは各地区の社協へ配分されます。100万円の予算です。

他にも、子育てサロンへの助成に50万円、ボランティア情報誌「メガホン」の発行に33万円、敬老事業(88



歳、99歳の方への祝い品贈呈等)に約30万円、「ふれあい映画上映会」に約30万円、ボランティア活動助成に30万円、スマイルとうど事業に24万円、ボランティア活動促進事業に21万5千円、配食サービス(独り暮らし高齢者などのお宅に月に一度お弁当を届ける事業)に16万円、福祉団体への活動助成に7万円、などなど、挙げるのに紙面が足りませ

※1：ちなみに、昭和22年は「日本国憲法」が施行された年です。歴史を感じますね。
※2：先月号の記事を参照ください。

さんが、非常に様々な事業に使われています。詳しく知りたい方は、このページのポスター下のURLで「はねつと」というサイトを開き、「長野県」↓(画面右側で)「飯山市」↓(画面右側で)「赤い羽根の助成で行われた活動」をご覧ください。

その4・結局、誰のための募金なのか

「共同募金」あるいは「募金」と聞くと、「かわいそうな人たちのための募金か」と思われる方が多いようですが、実はまったくそうではありません。

共同募金は、「自分たちのまちを良くするために、自分たちが集め、自分たちが、自分たちのために使う」募金です。

この下のポスターをご覧ください



街頭募金の様子

ください。

いいやまを

良くするしくみ

とあります。小さくて見づらいかもしれませんが、いろいろなマークがあります。この中に、皆さんの必要とするもの(ニーズ)があるかもしれません。もしも見つからないという方は、右下の空いているところにご自分で入れてみてください。それでこのポスターは完成します。

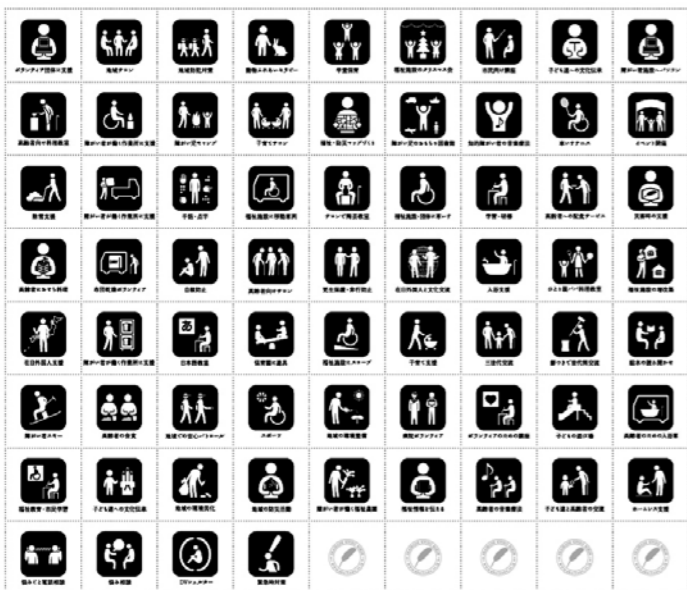
それぞれに色々なニーズがあり、みんなが少しずつ

お金を出し合つてそのニーズを埋める。

「赤い羽根共同募金」に、是非ご協力ください。



いいやまを良くするしくみ。



赤い羽根共同募金

10月1日(木)～12月31日(木) www.akaihane.or.jp



<http://hanett.akaihane.or.jp/hanett/pub/home.do>